

専門家を信用するな！

医療の世界のことは、しばらく置く。(いや、いっぱいあるんですけど、それこそ専門的になりすぎて、説明しにくい。) いわゆる専門家のいうことを鵜呑みにするな、と(小生が)いう。

もっとも端的な例は、あの阪神大震災のときの、高速道路のていたらくである。その数年前に日本の「専門家たち」は、ロスアンジェルス大地震の際に高速道路が崩壊したとき、「日本は耐震構造が発達しているから、あんなことは起こらない」と言っていた。いざ、倒壊したら、「いやあれは、震源から70km以上離れて、震度6程度の意味で言ったことなんです」などとしどろもどろの見苦しい言い訳に終始した。アメリカの学者の強烈な抗議に、一番先に、修理を始めよった。(震源からの距離とか震度とかについては、どのマスコミも、それ以前には一言も報道していない。米国の状況についても詳報はなかった。)

10年過ぎても、「あのときの地震は・・・」と今もって、数時間語り合えるほど強烈な体験であった。

別の所で書こうと思っていたのだが、今書いてしまう。あの頃、バブル景気ははじけていたが、まだまだ、「金さえあつたらええねやろ」という風潮が強く、この日本はどうなっていくのだろうと思っていた。友人と、「こんなことしてたら、いずれ天変地異が起こるぞ」などと言っていた。そこに、あの地震である。にもかかわらず、日本中から数十万円単位の義捐金が続々と集まり、ボランティア元年といわれるように多くの善意が集中した。森功先生と「日本人も捨てたものでもなかった。よかったですネ」などと話したものである。ところが、10年もしないうちにライブドアとか何とかファンドとか、それこそ「金、金、かね」の連中がゾロゾロでてきて、(東証もみつももない醜態を曝して)日本人というのは熱し易く冷め易い、いやむしろ記憶力が悪いのではないか、と思うに至る。いっつも変わってへんやないか。マスコミも学習することなく、今でもセレブがどうの、「勝ち組、負け組」などと囃したり、一番記憶力の悪いバカはマスコミだな。

台風の最大風力の記録は？と子供にきかれて気象庁の専門家が答えられない。さあ、60メートルくらいですかねえ。・・・60メートルなら、毎年室戸岬で観測されている。第2室戸台風のとき、宮古島で風速84メートルと書いたのは新聞である。自分たちの書いたものさえ忘れとるねん。大体歴史から何も学んでいないのが自称ジャーナリストと称する「専門家の集団」である。いや筆がすべった。

話をもどすと、まだまだある。京都のなんとかいう池に藻が繁殖しすぎたため、草魚を放流して藻を食べさせようとした。すると藻は減ったが、今度は水質汚染がひどくなって、・・・草魚を絶滅させようとしている。

奄美のアマミノクロウサギを、ハブの被害から守ろうという。ハブといえば、沖縄に行ったことがある人ならわかるが、天敵がマングースである。で、マングースを放すと、ハ

ブ退治どころか、当のアマミノクロウサギやら家禽の鶏を食べるから、今度は、マンガースを退治しよう。・・・マンガースからみれば、命がけでハブと戦うよりも、ほとんど抵抗しない鶏の方が餌としてはありがたい。このようなごくあたりまえのことに気づかない。

箕面の猿にしてもそうで、50年前には、日本で初めて野生の猿を餌付けした、と大騒ぎしてもて囃したではないか。現在はどうか、暴力ザルと呼んで、餌をやるな。山に追い返そうとしているが、そんな人間の思惑など関係なく、なかなか山にもどってくれない。

専門家が、というよりも人間が、勝手な思考で狭い視野で判断する。自然の強烈なシッペ返し。

もう数十年前になるが、小学生が地質学の専門家に質問するという企画があった。ここである子供が、「関東地方は沈んでしまうと言われていますが、一気に沈んでしまうのですか？」と質問した。専門家の答えは、「沈むかどうかわかりませんが、もし沈むにしても徐々に沈んでいくと思います。」・・・これを子供だましという。沈んでしまうかどうかわからないのに、一気に徐々に、わかれへんやないの？！

両親とも全盲で目が見えない。子供を妊娠したら産科医が生んではいけない、という。このとき、医師ではないが遺伝学の専門家が、産むべきだといった。そして、生まれた子は健常者で、成長するにつれて両親の目の代わりを勤める。

両親ともに、脳性麻痺で細かい動作ができない。心ない人に、去勢を勧められた。それでも女の子を産んだ。この子が、両親のできないことの代理をし、しかも本当の意味の福祉に目覚めていく。

鹿児島かどこかの大学で、生まれてくる男の子が先天性の障害児だと胎児判断をして墮胎を容認した。当然学会も含めて、賛否両論ある。これはTVでみたのだが、20代の二分脊椎症という障害をもっている人が言った。「僕には、そのことについては誰も責められませんが（と目を赤くしながら）・・・ボクは不便ではあったけれど、不幸と思ったことは、ありませんでした。・・・」（このことについては、別の機会にも述べるが）

われわれが知らないことは、山ほどある。巨大な事実の海の、氷山の一角よりも僅かしか知らないのに、全部わかったようなつもりになってしまいがちである。そして新しいことがわかったりすると、マスコミも大騒ぎするが、なに、ごく一部の些細な事ではないか。